**ハンドマイク街頭演説原稿例　新型コロナ対策申し入れ**

二〇二〇年七月二十九日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日は、この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　新型コロナウイルス感染の拡大が、なかなか止まりません。このまま感染拡大を抑えられなければ、医療崩壊を引き起こし、救える命が失われることにつながりかねません。しかし、政府は感染拡大を抑えるための効果的な対策を打ち出さず、反対に感染を広げる危険性のある「ＧｏＴｏトラベル」を強行しています。このままでは、新型コロナは収束どころか、さらに大変な事態になってしまうのではないでしょうか。

　日本共産党の志位委員長は七月二十八日、新型コロナ対策についての緊急の申し入れを、安倍首相あてにおこないました。

　申し入れの第一は、特に無症状の感染者が集まり、感染が持続的に集積する地域、感染震源地とかエピセンターと呼ばれる地域を明らかにして、その地域に住む人や働く人すべてにＰＣＲ検査を行うことです。全国の感染状況を分析して感染震源地を明らかにし、そこで徹底的に検査して、他人に新型コロナを移す、「感染力」のある人を見つけ出して隔離・保護する。感染の拡大を止めるためには、どうしても必要なことです。

　申し入れの第二は、地域ごとの感染状況についての情報を、住民に開示することです。アメリカ・ニューヨーク市などでは、地域ごとの感染状態が細かく分かる「感染マップ」を作成し、住民に示しています。第三は、医療機関や介護・福祉施設や学校、保育園、幼稚園など、集団感染のリスクの高い施設の職員や出入り業者には、定期的にＰＣＲ検査を行い、必要に応じて利用者全体に対しても検査を行うことです。第四は、検査によって明らかになった陽性者を隔離・保護・治療する体制をつくりあげることです。

　検査数を増やしたら陽性者が増え、医療体制が追いつかなくなるという意見もありますが、検査してもしなくても感染の事実は変わりません。むしろ検査を増やして事態を正しくつかみ、適切に対応することで、気づかぬうちに他人に新型コロナを移したり、院内感染や集団感染を引き起こしたりする事態を防げるのではないでしょうか。

　また、ＰＣＲ検査では、感染していても陰性になる人が一定比率で出ると言われています。しかし、他人に移す可能性の高い、のどや鼻にウイルスがいる人を見つける点で、ＰＣＲ検査は大変すぐれています。感染を広げないためには、感染力を持つ人を見つけることにすぐれているＰＣＲ検査を、思い切って広げることが必要ではないでしょうか。

　みなさん、事態は切実です。ＰＣＲ検査を増やして安全・安心の社会をつくれ、感染状況を詳しく開示せよの声を、ごいっしょにあげようではありませんか。

　この機会に日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」の購読をお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）